

令和7年産 元気つくし

5月28日～6月3日 播種 栽培暦
(6月20～25日 田植え)

北九州普及指導センター
J A 北 九

月別	5月		6月			7月			8月			9月			10月			
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬		
水管理																		
生育ステージ	<p>5月28日～6月3日頃 播種 (1箱当り 150g)</p> <p>6月20～25日頃 田植 (坪当り 60株 3畝当り 4本)</p> <p>有効分けつ終期 (-40日) 穂首分化期 (-30日) 幼穂形成期 (-25日) 減数分裂期 (-15日) 出穂期 (-10日) 穂揃期 (0日)</p> <p>刈取 (9/23日頃 成熟期)</p>																	
管理のポイント	<p>良食味対策に けい酸加里 40kg</p> <p>基肥: きたきゅう 48kg, ベスト 44kg (又は 35kg)</p> <p>田植: 深植防止, 補植苗の除去</p> <p>除草剤施用</p> <p>中干し, 溝切り</p> <p>良食味対策に けい酸加里 20kg</p> <p>穂肥: NK2号 幼穂 3mm, 15kg</p> <p>最も水が必要な時期!</p> <p>① 土壌改良資材施用 2t ② アズミンの投入 40kg (又は 堆肥投入)</p> <p>○ 収穫後早めの耕起 ○ 落水はなるべく遅く ○ 土づくり (ヒメトビウンカ対策)</p>																	
病害虫	<p>ばか苗病, いもち病, ごま葉枯れ病, シンガレセンチュウ, 苗立枯病, 白カビ</p> <p>葉いもち, ヒメトビウンカ, ヨコバイ類, スクミリンゴカイ (ジヤンボタニシ)</p> <p>葉いもち, ウンカ類 (補正), コブノメイガ, (イネカメムシ), 斑点米カメムシ</p> <p>ウンカ類, 穂首いもち, 紋枯病, カメムシ類, トビイロウンカ</p> <p>《栽培注意点》 ☆ 苗丈が長くなりやすいので、緑化後は早めに被覆資材を除去する。 ☆ いもち病の常発地や野菜後等での栽培は基肥を減肥し、追肥で調整する。 ☆ 倒れやすい傾向にあるので、過剰施肥にならないよう注意する。 ☆ 後半肥料切れに注意。 ☆ 出穂2週間前までに周辺雑草を除草しカメムシ類の本田への侵入を防ぐ。</p>																	
重点防除農薬	<p>箱剤: フルストロットル箱剤</p> <p>初中期一発除草剤: アピログロウM, サラブレッドG, サラブレッドG, ウイニングランド</p> <p>※ 移植後落水・田面の均一化</p> <p>※ 発生が確認された場合は防除</p> <p>※ 発生が無くか圃場確認</p> <p>※ 野菜後や高温多雨時は注意</p> <p>(飛来多) アルバリン粉剤, アルバリン顆粒水溶液, スタークル豆つぶ</p> <p>※ 発生パターンにより補正防除</p> <p>粉剤: ブラシントレバリダ粉剤DL</p> <p>粒剤: ゴウケツモンスター粒剤</p> <p>液剤 (へり防除): エクシードフロアブル, ダブルカットバリダフロアブル, エクシードフロアブル</p> <p>※ 出穂後の畦畔除草はしない</p> <p>航空: エミリアフロアブル, スタークル豆つぶ, エミリア液剤10</p> <p>《防除注意点》 ☆ 稲の開花期防除 (カメムシ) は、ミツバチへの影響が考えられます。近くで養蜂が行われている場合は、稲の開花期には農薬の散布を避けましょう。 ☆ 散布時期 必須①は、出穂前散布 必須②は、穂揃い期後散布 農薬散布時はドリフトに注意する!</p>																	
※ 農薬成分数	④	③	④	④	④	④	④	③	①	①	①	③	③	①	①	①	①	①